

令和元年6月12日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26242004

研究課題名(和文) IT社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から

研究課題名(英文) Parenting and relations with family and friends in IT society: An international comparison in Japan, Korea, U.S. and Sweden

研究代表者

石井クンツ 昌子 (Ishii-Kuntz, Masako)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：70432036

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 29,200,000円

研究成果の概要(和文)：育児期の親を対象として、子育てや他者とのコミュニケーションにスマートフォンなどのIT機器やソーシャルネットワーキング(SNS)を含むソーシャルメディアがどのように活用されているのかを把握し、日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較を行なった。主な結果としては、日本では未就学児のIT利用時間が他の国と比較して短いこと、また父親と母親の親子遊びにおけるIT・SNS利用頻度も低いことがわかった。しかし、日本では親のIT利用頻度が低いにもかかわらず、子どものIT利用に対する不安は韓国に次いで高かった。更に、親のIT・SNS利用はより頻繁な父親の子育て参加、母親の親としての充実感を高めていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義はIT・SNS利用と子どもの発達や親子・夫婦・世代間・友人関係との関連について、国際比較を通して多くの知見を得ることができたことである。社会的意義としては、IT・SNSを介した父親と母親のインフォーマルなサポートネットワークの解明により母親の育児不安の抑制と父親の育児参加推奨への重要な示唆を得たこと、情報社会における世代間のサポートのあり方に関する指針の作成を可能にする結果を得たこと、IT・SNS先進国との比較により、わが国の具体的かつ効果的な子育て支援への提案ができることである。これらの示唆を通じて、情報社会における家族のサポートに関する有意義な政策・教育提言が可能であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The objectives of this project are to investigate the extent of IT and SNS use among parents of preschool-age children, and to examine the effects of parental IT/SNS use on child's development and relationships with family members and friends. Further, we compared these relationships among four IT-advanced countries, Japan, South Korea, U.S. and Sweden. We found that Japanese preschoolers use IT and SNS least frequently compared to their counterparts in other three countries. Additionally, our data analysis reveals that both Japanese fathers and mothers least frequently use IT/SNS when playing with their children. Despite these less frequent usage of IT tools and SNS, Japanese parents' concerns over children's use of these technologies were the second highest, following that of South Korean parents. It was also found that in all four countries, parental use of IT/SNS was positively associated with fathers' participation in child care and mothers' parental well-being.

研究分野：社会学

キーワード：育児 IT社会 父親 母親 国際比較 夫婦関係 世代間関係 友人関係

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を開始した当初は、スマートフォンやタブレット端末などの **IT** 機器とソーシャルネットワーキングサービス (**SNS**) が目まぐるしく進化して、これらの利用者数が急速に増えていた時期である。

(2) 急速に発展してきた **IT** 機器と **SNS** ではあるが、研究開始当時は親の **IT** と **SNS** の活用が子どもの発達や親子関係などにどのような影響を与えているかを検討した日本における研究は本プロジェクトの土台となる平成 **19**~**20** 年度の基盤研究 (**C**) と平成 **22**~**24** 年度の基盤研究 (**B**) のみであった。

(3) これらの先行研究の結果の独自性や類似性を検証するためには、他の **IT** 先進国との比較が必要であると思われたが、研究開始当初にはこの課題について、4カ国間の比較を行なった調査は皆無であった。

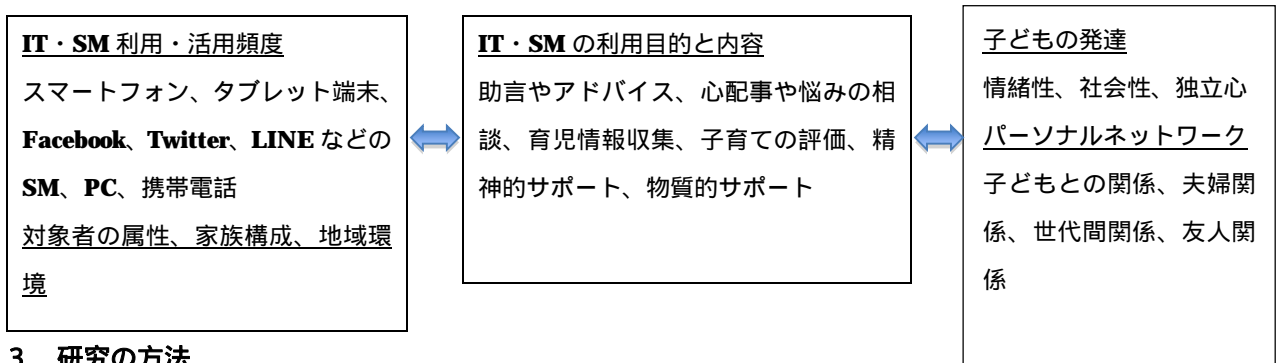
2. 研究の目的

(1) 育児期の父親と母親の **IT**・**SNS** 利用頻度や利用目的の実態を把握する。

(2) 育児期の父親と母親の **IT**・**SNS** 利用が子ども (未就学児) の発達や親子・夫婦・世代間関係と友人関係へどのような影響を与えているのかを明らかにする (研究概念図 図1 参照)。

(3) 上記 (1) と (2) について、日本と **IT** 先進国である韓国、アメリカ、スウェーデンで同様のデータを収集して、国際比較を行なう。

図1 研究概念図



3. 研究の方法

家族社会学と家族関係学の視点から研究を進めるために、量的 (WEB 調査) 及び質的 (個人ヒアリングとフォーカスグループインタビュー) 調査を主な研究方法として実施した。

(1) WEB 調査「IT 社会の育児と家族・友人関係について」(日本・韓国・アメリカ・スウェーデン)

(2) フォーカスグループインタビュー調査 (日本・韓国)

(3) ヒアリング調査 (アメリカ)

4. 研究成果

本プロジェクトで収集したデータを様々な角度から分析したが、本成果報告書では主な結果について概観する

(1) 調査対象者

フォーカスグループインタビュー 平成 **26** 年度

育児期の父親と母親がこれらの新しい機器とサービスをどのように利用しているのかについて最新の情報を得るために、東京とソウルにおいてフォーカスグループインタビューを実施した。対象者は日本の父親と母親各 **5** 名 (計 **10** 名)、韓国の父親と母親各 **5** 名 (計 **10** 名)。

WEB 調査「IT 社会と育児と家族・友人関係について」平成 **27** 年度~**28** 年度

日本リサーチセンター (**NRC**) に委託して、日本・韓国・アメリカ・スウェーデンで同様の調査を行なった。対象者となりうる条件としては、大都市在住で未就学児の子どもを持つ核家族の父親と母親である。各国で父親と母親各 **1000** 名 (計 **8000** 名) からのデータ収集を目標とした (表1 参照)。

父親と母親へのヒアリング調査 平成 **26**~**30** 年度

IT 機器や **SNS** 利用とそれらの家族・友人関係への長期的な影響を検討するために、米国においてスマートフォンやタブレット端末を育児のために頻繁に利用している父親と母親各 **10** 名 (計 **20** 名) に対して **1** 時間程度のインタビューを縦断的に実施した。

表1 調査対象者の概要

	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン
実施期間	2016年2月4日~15日	2016年2月22日~3月3日	2017年1月26日~2月15日	2016年10月25日~11月21日

対象地域	東京都、千葉県、埼玉県、 神奈川県	ソウル特別市、仁川広 域市、京畿道 31 市部	ニューヨーク市を中 心とした大都市圏	ストックホルム市周辺 を中心にスウェーデン 全域
サンプル 数	父親 1242 名 母親 1194 名	父親 1026 名 母親 1021 名	父親 1007 名 母親 1001 名	父親 1075 名 母親 986 名

(2) 主な記述統計結果

末子の IT 利用時間

表 2 に示すように、末子（未就学児）の一日の IT 利用時間を 4 カ国で比較すると、最も長いのはアメリカの約 120 分、次いでスウェーデンの約 110 分と韓国の 83 分であり、日本では約 50 分となっており、最も短い。

表 2 未就学児（末子）の一日あたりの IT 利用時間（分）

	平均値	標準偏差値	最小値	最大値
日本	49.02	52.12	0	270
韓国	83.01	68.95	0	270
アメリカ	120.23	78.04	0	270
スウェーデン	109.90	67.87	0	270

父親と母親の親子遊びにおける IT 利用頻度

父親と母親が親子遊びにおいてどの程度 IT を利用しているのかを把握するために、「子どもと一緒にゲームやアプリ、知育ソフトを使って遊ぶ」という項目について、その頻度を尋ねた（表 3）。回答項目は 1「しない」から 5「ほぼ毎日」である。まず父親の国際比較をみると、子どもの IT 利用頻度と同じパターンが見えてきた。すなわち、父親が親子遊びにおいて IT を利用している頻度は日本で最も低く、最も多いのがアメリカの父親である。この傾向は母親にも見られた。父親と母親の比較では、日本と韓国では母親のほうが親子遊びにおいて IT を利用している頻度が高いが、アメリカとスウェーデンはこれと逆のパターンが見られた。

表 3 父親と母親の親子遊びにおける IT 利用頻度

		平均値	標準偏差値	最小値	最大値
日本	父親	2.28	1.17	1	5
	母親	2.32	1.25	1	5
韓国	父親	3.25	1.13	1	5
	母親	3.41	1.14	1	5
アメリカ	父親	4.03	1.01	1	5
	母親	3.89	1.10	1	5
スウェーデン	父親	3.65	1.05	1	5
	母親	3.51	1.13	1	5

日本の父親と母親の IT 利用が他の国々と比較して低い傾向にあるが、同じようなパターンがネットを使った子育て情報の検索でも見られた。また、子どもの IT 利用に対する不安について「子どもがネット依存になるのが心配」という質問を用いて尋ねた結果、「不安である」と「やや不安である」に回答したのは日本で 68.4%、韓国で 70.2%、アメリカで 67.8%、スウェーデンで 51.9%であった。親と子どもの IT 利用の頻度が最も高いアメリカと比較すると、日本の親は IT 利用頻度が低いにもかかわらず、不安度は高いということが明らかになった。

母親の IT を使った祖父母世代との育児に関するコミュニケーション

IT を通した母親と祖父母（実の親）との育児に関するコミュニケーション頻度を見るために、「育児に必要な情報を得る」「育児の悩みや心配事を相談する」「育児の連絡（送迎・預かり・遊び等）」「子どもの写真や動画を見せる・送信する」の 4 項目に対して回答を求めた。数値が高いほど、これらのコミュニケーションをより頻繁に取っていることになる。表 4 に提示したように、祖父母世代との IT を介したコミュニケーションが最も多いのは韓国の母親であり、次いでアメリカ、日本、スウェーデンであった。上述した子どもの IT 利用時間と父親・母親の親子遊びにおける IT 利用頻度では日本のデータが最も低かったが、親とのコミュニケーションにおいては、スウェーデンで一番頻度が低かった。

表 4 祖父母世代との IT によるコミュニケーション

	平均値	標準偏差値	最小値	最大値
日本	4.30	4.08	0	16
韓国	7.10	4.98	0	16
アメリカ	5.67	5.28	0	16
スウェーデン	3.11	4.03	0	16

(3) 主な多変量解析結果

国際比較の視点から、IT 利用と父親の育児行動、未就学児の社会情緒的発達、夫婦間の意思決定、母親の役割適応感、世代間コミュニケーションの関係についての主な結果を述べる。

父親の IT 利用と父親の育児行動頻度との関連

父親の IT 利用は自身の育児行動頻度と関連があるのかについて検討するために、子育て情報取得のための IT 利用、SNS を利用した妻からのサポートや情報共有、SNS などを使った親・友人・職場からのサポートを属性と父親の育児行動をつなぐ媒介変数としてパス解析による多母集団分析を行なった。以下がこの研究から得られた結果である。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 日本の父親の場合、IT による子育て情報取得が頻繁であるほど、子育てに参加していた。また、妻からの直接的なサポートがあることも夫の子育てを促していた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 韓国の父親の場合は、IT を通じた友人のサポートがあるほど、また妻からの直接的なサポートがあることが、夫の子育て参加の頻度をあげていた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> アメリカとスウェーデンでは、唯一、妻のサポートが多いほど、夫は子育てに参加していた。 |

父親の IT 利用頻度と未就学児の社会情緒的発達の評価との関係

本研究では、父親の IT 利用頻度が父親による育児や子どもの評価にどのような影響を与えているのかを明らかにした。菅原 (2014) は親の育児における IT 利用は、距離の近さや刺激の強さから、子どもの社会情緒的発達にはネガティブな影響があるとしているが、スマホなどを使いゲームなどをする場合は、親子間コミュニケーションを促す効果もあるという。そこで、IT を用いた親子遊びの頻度や IT を活用した育児情報の収集頻度が父親の子どもの発達に対する評価とどのような関係があるのかを検討した。得られた研究結果は以下である。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> IT を用いた親子遊び頻度は、アメリカの父親の子どもの発達に関する評価を高くしていたが、韓国では評価が低くなるのがわかった。日本とスウェーデンでは有意な関係が示されなかった。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 4 カ国の共通点としては、父親の IT を使った育児情報収集頻度が高まるほど、父親による子どもの社会情緒的発達の評価が低くなることであった。 |

母親の IT 利用が夫婦間の子育てに関する意思決定に及ぼす影響

夫婦間の意思決定に関する研究は、子育てや家計など家庭生活全般に関する研究が蓄積されてきた (例: Himmelweit et al., 2013; Treas & Tai 2011)。しかし、夫婦の意思決定と母親の IT 利用に焦点をあてた研究は皆無であった。本研究では、夫との IT コミュニケーション及び IT を利用した子育ての情報検索などが夫婦間の子どもの教育に関する意思決定にどのような影響を与えているのかを検討した。その結果は以下にまとめる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 日本では夫とのメール・SNS を媒介としたコミュニケーションが多いほど、子どもの教育に関する意思決定を夫がより多く行なっていることが明らかにされた。この関係は韓国でもみられた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> アメリカとスウェーデンの場合は、夫との IT コミュニケーション頻度が高いこと、更に夫が IT を利用した子育ての情報検索を行なっているほど、夫が子どもの教育に関する意思決定により多く参加していることがわかった。 |

母親と子どもの IT 利用頻度と母親の役割適応感との関係

本研究では母親が子育てにおいてどのように IT を使っているのかを明らかにして、そのことが母親の育児困難感や役割適応にどのように関連しているのかを明らかにした。母親役割適応感とは「子どもの世話をうまくできている」「親であることを楽しんでいる」「こどものしつけをうまくできている」「親であることに充実感を感じる」の 4 項目から成る。この従属変数にネットの子育て情報をどの程度参考にしているのか、子どもの IT 利用頻度、「一緒に出かける場所などを検索する」「教育・習い事について検索する」などを含む子育てのための母親の IT を利用頻度、母親のスマホ・タブレットの利用時間を媒介変数として分析して、以下の結果が得られた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 日本では母親の子育てのための IT 利用頻度が高いほど、母親の役割適応ができていた。しかし、スマホやタブレットの長時間に渡る使用は母親の役割適応感を低めていた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 韓国では、唯一、子育てのための母親の IT 利用頻度が高ければ、母親役割適応は高くなっていった。 |
| <ul style="list-style-type: none"> アメリカとスウェーデンの場合、母親の IT 利用は母親役割適応感に有意な影響を与えていなかった。 |

世代間の IT コミュニケーションと母親の就業との関連 (大風)

Gubernskaya & Treas (2016) は、日本を含めた 24 カ国データを分析した結果、モバイル端末が普及する国に居住する場合の方が世代間のコンタクト頻度が高いことを明らかにした。しかし個人レベルで IT 機器や SNS 利用が世代間のコンタクト頻度や援助交換にどのような関連があるのかを検討した研究はなかった。そこで、本研究では母親に焦点をあてて、子どもにとっては祖父母にあたる母親の親からの支援 (「ものを買ってもらおう」「経済的な援助をしてもらおう」「家事など身の回りの世話をしてもらおう)」について、IT を介したコミュニケーションがどのように関わっているのかを検討して、以下の結果を得ることができた。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 4 カ国共通して、祖父母との IT を介したコミュニケーション頻度が高いほど、祖父母からの支援が多かった (標準化係数値は日本 .38, 韓国 .47, アメリカ .35, スウェーデン .42 で全て .001 水準で統計的に有意であった)。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 祖父母との IT コミュニケーションを活発化させるのは、孫が小さく母親の育児負担が大きい時期や、孫の成長を世代間で共有したい時期であった。IT 機器を介するコミュニケーションという特性上、母親も祖父母も相対的に IT リテラシーが高い若い時期に IT を介したコミュニケ |

ーションが活発に行われている傾向にある。

(4) 本研究の意義と今後の課題

2007年から行ってきた日本の育児期の親の調査を土台として、IT先進国である韓国、米国、スウェーデンの育児期の親に同じ調査を実施し、国際比較を行なった。

時代の変化に対応させてIT機器利用の内容として、スマートフォン、タブレット端末、携帯電話、パソコンなどのIT機器と発信型のSNSを含むSMの利用を取り入れた。

IT利用が与える影響として、子どもの発達、親子・夫婦・世代間などの家族関係、友人関係、ソーシャルサポートなどの変数を取り上げた。また、分析者の関心により、多様な仮説に基づき、独自の媒介変数や合成変数などを用いた多様な分析を行なった。

日本及び韓国において、就学前の子どもを持つ父親と母親を調査対象としたフォーカスグループインタビューを行ない、WEB調査の内容で明らかにしにくい具体的なIT利用の様子と親子関係などを明らかにした。

アメリカにおいて、調査開始時に未就学児を持つ父親と母親に対して縦断的なヒアリング調査を行ない、親のIT機器とSNS利用の長期的な影響について明らかにした。

平成26年から開始した本調査から既に5年が経過したが、日本の父親については、より詳細にITとSNS利用の実態と育児参加への関連を検討すること、そして親のみではなく、未就学児のIT・SNS利用について、その長短所に関する検討が今後の課題としてあげられる。

引用文献

Gubernskaya, Z. & Treas, J. Call home? Mobile phones and contacts with mother in 24 countries, *Journal of Marriage and Family*, 2016, 78(5), 1237-1249

Himmelweit, S., Santos, C., Sevilla, A. & Sofer, C. Sharing of resources within the family and the economics of household decision making. *Journal of Marriage and Family*, 2013, 75, 625-639.

石井クンツ昌(編)『IT社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から』平成26年度～平成30年度科学研究費補助金 研究成果報告書、2019
菅原ますみ、乳幼児の親子のメディア活用調査をふりかえって 子どもの発達と親子のかかわりの観点から、ベネッセ教育総合研究所編、第1回乳幼児の親子のメディア活用調査報告書、14-15

Treas, J. & Tai, T. How couples manage the household: Work and power in cross-national perspective. *Journal of Family Issues*, 2011, 33(8), 1088-1116

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 50件)

石井クンツ昌子、育児・家事と男性労働、日本労働研究雑誌、699巻、2018、27-39

中川まり、妻のIT利用は夫婦間の子育てに関する意思決定にどう影響するのか-日本・韓国・米国の3カ国比較調査から、生活社会科学研究、査読有、25巻、2018、65-74

牧野カツコ、子どもと家族-多様な家族・多様な子ども、コミュニケーション、65巻、2017、10-11

岡村利恵、未就学児を持つ母親のIT機器利用と生活充実感、家族社会学研究、査読有、29巻、2017、7-18

小林美晶、子どものIT機器使用時間と社会性に対する認識を規定する要因-日本の育児期母親・父親データの二次分析から-、人間文化創成科学論叢、査読有、19巻、2016、245-253

石井クンツ昌子、男性が「父親」にあるには何が必要か、助産雑誌、68巻、2014、768-773

石井クンツ昌子、日本における性別役割分業-女性力と「育メン」現象の関係、Peace and Culture、6巻、2014、17-24

〔学会発表〕(計 114件)

Ishii-Kuntz, Masako, Internet Use and its Effect on Families and Children: A Japan and U.S. Comparison, National Council on Family Relations, 2018

Kato, Kuniko and Morinaka, Noriko. The Impact of Parents' ICT Use for Childcare on their Evaluation of Children's Socio-Emotional Development: A Comparison of Dual-Earner Families in Japan and the U.S.A., National Council on Family Relations, 2018

Nakagawa, Mari, Sano, Junko and Okamura Rie, The Effect of Mother's IT Use on Maternal Fulfillment And Anxiety over Children's IT Use among Dual-Earner Families, National Council on Family Relations, 2018

Okaze, Kaoru and Aikawa, Shoko, The Impact of Working Mothers' Internet Use on Effectiveness of Parenting and Grandparents-Mothers' Relationship: A Japan-U.S.A. Comparison, National Council on Family Relations, 2018

大風薫、育児期の親のITを通じたコミュニケーションと世代間関係、日本家政学会家族関係学セミナー、2018

Okamura, Rie, Use of ICT and Well-being among Mothers of Preschool Children Focusing on a Comparison among Japan, South Korea, United States and Sweden. Asia Pacific

Sociological Association, 2018

佐野潤子、母親と父親の育児行動頻度と子育てに関する IT 利用の関わり-日米比較、日本家族社会学会、2018

岡村利恵、未就学児を持つ母親の ICT 利用と生活充実感-日本と韓国・米国・スウェーデンとの比較から、日本家族社会学会、2018

石井クンツ昌子、インターネット調査の興隆とその問題点と課題、日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイブ分科会、2017

Ishii-Kuntz, Masako. The Relationship between the ICT/SNS Use and Fathers' Participation in Child Care: Findings from a Comparative Study in Japan, Korea, U.S. and Sweden. School of Human Ecology, Seoul National University, 2017

石井クンツ昌子、IT の利用と子育て、せたがや自治政策研究所、2017

牧野カツコ、日本・韓国・アメリカ・スウェーデンの家族と子育て・IT 利用、日本家族社会学会、2017

Ishii-Kuntz, Masako. The Use of Internet and SNS and its Effect on Families and Children: Cases of Japan, Korea, U.S. and Sweden, National Council on Family Relations, 2017

Kato, Kuniko and Takayama, Junko. The Impact of Parental IT Use on the Evaluation of Children's Socio-Emotional Development: Comparison among Dual-Earner Families of Japan, South Korea, U.S. & Sweden, National Council on Family Relations, 2017

Nakagawa, Mari and Omagari, Mika. Mothers' IT Use and its Impact on Couples' Decision-making about Child Care and Household Finances, National Council on Family Relations, 2017

Takamaru, Rika and Hashimoto Kayo, Fathers' IT Use and Perception toward Young Children's Use of IT Tools, National Council on Family Relations, 2017

Okaze, Kaoru and Liu Nan, Mothers' IT Use in Three-Generational Communications and its Impact on Support from their Parents, National Council on Family Relations, 2017

Omagari, Mika, ICT Use for Gathering Information on Child Care: A Comparison between Japan and Korea. Asian Regional Association for Home Economics, 2017

牧野カツコ、岡村利恵、中川まり、佐々木卓代、高丸理香、加藤邦子、劉楠、育児期の父親・母親の IT 利用と家庭生活-日本と韓国の比較から、日本家族社会学会テーマセッション、2016

〔図書〕(計 58 件)

Ishii-Kuntz, Masako (分担執筆), Springer, Family Life in Japan and Germany: Challenges for a Gender-Sensitive Family Policy, Meier-Grawe, U., Motozawa, M., & Schad-Seifert, A. (Eds.), In Press, 2019

石井クンツ昌子 (編) お茶の水女子大学、IT 社会の子育てと家族・友人関係: 日本・韓国・米国・スウェーデンの国際比較から、2019、321

Ishii-Kuntz, Masako (分担執筆), Routledge, Being Young in Super-Aging Japan: Formative Events and Cultural Reactions, Heinrich, Patrick & Galan, Christian (Eds.), 2018, 230

加藤邦子、風間書房、両親のペアレンティングが未就園児の社会的行動に及ぼす影響-包括的理論の構築とその実証的検討、2017、253

石井クンツ昌子 (分担執筆) ミネルヴァ書房、家族・働き方・社会を変える父親への子育て支援、小崎恭弘、田辺昌吾、松本しのぶ (編) 2017、14-19

牧野カツコ・石井クンツ昌子 (分担執筆) 金子書房、日本の親子、平木典子・柏木恵子 (編) 2015、267

Ishii-Kuntz, Masako (分担執筆), Routledge, Handbook of Families in Asia, S. Quah (Ed.), 2015, 530

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 牧野カツコ

ローマ字氏名: **Makino Katsuko**

所属研究機関名: お茶の水女子大学

部局名:

職名: 名誉教授

研究者番号 (8 桁): **70008035**

(2) 研究協力者

研究協力者氏名: 加藤邦子・佐々木卓代・中川まり・林葉子・劉楠

ローマ字氏名: Kato Kuniko, Sasaki Takayo, Nakagawa Mari, Hayashi Yoko, Liu Nan